

先日、生野支援学校主催で行われた坂井先生の講演会。皆様行かれましたか？？僕も宿直明けに駆けつけましたが、平日なのにも関わらず、たくさんの方が来られていました。サント物語でも告知させていただいたので、支援学校の校長先生にわざわざご挨拶に来て頂きまして、恐縮です。(^^;)でもたくさんの方々に坂井先生の話聞いていただけて、ほんと良かったです。やっぱり坂井先生の話は面白い！なかなかチャンスが無いと思いますが、まだ聞いた事が無い方は是非とも聞いてみて下さいね。ほんとめっちゃ面白く、解りやすいですからね。 久田

## 第29回『わかるように伝えていますか』

香川大学 坂井 聡

### ☆コミュニケーションの領域

今回からしばらくの間、発達障がいのある人に見られるコミュニケーションの領域について考えてみることにします。

コミュニケーションするうえで、「聞く、話す」ということは非常に重要なことです。私たちは、多くの場合、音声表出言語によってやりとりをしているからです。このようなやりとりのことを私たちはコミュニケーションというように言っています。

発達障がいのある人のなかには、コミュニケーションすることを苦手としている人たちがいます。なかでも高機能広汎性発達障がいのある人はコミュニケーションすることを苦手としています。うまくやりとりをすることができず困っているということなのです。そして、コミュニケーションが苦手であるということは、その人だけの問題にとどまりません。

「あの人は、場をわきまえずはっきりものを言う困った人だ」、「あの人は、すぐに人を傷つける困った人だ」というような不当な評価を受けてしまうのです。他人から誤解されることになるということなのです。

その人の評価も大きく左右するコミュニケーションなのですが、コミュニケーションとはどのようなものなのでしょうか。

「コミュニケーションとはどのようなことを意味しているのですか？説明してください」と言われても、うまく説明することができないのではないのでしょうか。最初に、コミュニケーションについて考えてみたいと思います。

その上で発達障がいのある人たちが困っていることを明らかにし、その対応方法についても考えていきたいと思います。

コミュニケーションに関して一般的に認められている基本原理について、石井(1993)は次の6点であると述べています。

- ・コミュニケーションは、送り手、受け手、メッセージ、チャネルなどの構成要素から成る相互行為の過程である。  
この原理は、コミュニケーションの概念をモデル化する際に顕在化する。
- ・コミュニケーションは意識レベルと無意識レベルの両方で成立する。この原理は、表情や身振りなど無意識的にとられる非言語的行動があることから明らかである。
- ・コミュニケーションは不可逆的である。この原理によるといったん発信されて受け手に受信されたメッセージを元に戻すことは不可能である。いくら訂正したところで、それは、新しいメッセージでしかない。
- ・コミュニケーションは動的である。この原理は、コミュニケーションが静止状態ではなく、常に変化しつつある状態であることを示す。
- ・コミュニケーションは組織的である。この原理は、コミュニケーションにはさまざまな要素や条件が加わっているが、それらは有機的に関連し合って全体として組織的に作用することを示す。
- ・コミュニケーションは適応の性格をもつ。この原理によると、コミュニケーションに関わる人間は、構成要素（特に相手）や条件（例えば、その場の状況）などに適応しようと努力する。

このような基本原理がコミュニケーションにはあるということなのです。

では、コミュニケーションが成立するためには、何が必要なのでしょう。どのような要素があれば、コミュニケーションが成立するのでしょうか。これがわかると、コミュニケーションが成立しない場合、どのような点に配慮すればいいのかがわかってきます。そこで、コミュニケーションが成立するために何が必要なのかを考えてみることにします。

特に発達障がいのある子どもに対しては、これらの要素を知っておくことが大切です。何となくコミュニケーションが成立しないということだけで終わるのではなく、対応の方法を考えることができるからです。

DeVito(1986)や深田(1998)は対人コミュニケーション・プロセス・モデルを作っています。

次回からは、それについて説明を加えながら、対人コミュニケーションについて整理し、発達障がいのある子どもに対する対応方法も合わせて考えていきたいと思います。

#### 坂井聡先生の紹介

(プロフィール)

香川大学教育学部卒業 金沢大学大学院教育学研究科修了、香川大学教育学部附属養護学校など養護学校教諭を経て、現在香川大学教育学部障害児教育コース准教授 1997 年 自閉症のコミュニケーション指導で辻村奨励賞受賞

(著書)

暮らしの中のコミュニケーション（やまびこの里）クラスルームコミュニケーション（こころリース出版会）自閉症や知的障害をもつ人とのコミュニケーションのための10のアイデア（エンパワメント研究所）など